偶書一　横山峯雲

遙山峻峭白雲過、
江水澄清慰轗軻。
草樹幽深微見寺、
客愁寂歴可如何。

偶書《ぐうしょ》一《いち》　横山峯雲《よこやまほううん》

遙山《ようざん》　峻峭《しゅんしょう》
白雲《はくうん》過《す》ぎ、
江水《こうすい》　澄清《ちょうせい》轗軻《かんか》を慰《なぐさ》む。
草樹《そうじゅ》幽深《ゆうしん》　微《わずか》に寺《てら》を見《み》、
客愁《かくしゅう》　寂歴《せきれき》如何《いかん》とすべし。

（題意）
たまたま作った詩一
（詩意）
遙か向こうの山は削ったように高く、その上を白い雲が流れ、川の水は清らかに澄み、不遇の心を慰めてくれる。周りの草や木々は静かで奥深く、かすかに寺が見えて、旅ごころの寂しさはどうしたらよいのだろうか。

（注釈）
「遙山峻峭」と「江水澄清」は対句の意。
・偶書：たまたま作った詩
・遙山：遙か向こうの山。
・峻峭：削ったように高くて険しい。
・江水：川の水。
・澄清：澄んで清い。
・轗軻：不遇。不運。好機にめぐまれず志を得ないこと。
・草樹：草や木々。
・幽深：静かで奥深い。
・微：かすかに。
・客愁：旅にいる人のもの思い。旅愁。

・寂歴：寂しさ。

・可如何：何としたらよいのだろうか。

（平仄）

七言絶句。平起式。○は平韻の文字。●は仄韻の文字。◎は押韻。韻脚は「過軻何」。

○○　●●　●○◎（韻）

○●　○○　●●◎（韻）

●●　○○　○●●

●○　●●　○◎（韻）

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

偶書二　横山峯雲

緑樹青青山色滋、

忽来雷雨酔無知。

宴游対飲榴花酒、

草屋涼生風払帷。

偶書≪ぐうしょ≫二≪に≫　横山峯雲≪よこやまほうう ん≫

緑樹≪りょくじゅ≫　青青≪せいせい≫として山色≪さんしょく≫　滋≪しげ≫く、忽≪たちま≫ち来≪き≫たる雷雨≪らいう≫酔≪よ≫いて知≪し≫る無≪な≫し。

宴游≪えんゆう≫対≪たい≫し飲≪の≫む榴花≪りゅうか≫の酒≪さけ≫、草屋≪そうおく≫　涼≪りょう≫　生≪しょう≫じて風≪かぜ≫　帷≪とばり≫を払≪はら≫う。

（題意）

たまたま作った詩二

（詩意）

みどり色の木々は青青としていて、山の色が濃い、

すぐに雷雨がやって来たが、酒に酔っていて分からなかった。

酒盛りをして、向かい合って飲んでいるのは石榴の花をひたした酒だが、

峯雲の居所は涼しくなり、風が吹いてとばりを払っている。

（注釈）

・偶書：たまたま作った詩。

・山色：山のいろ。山のけしき。

・滋：しげりそだつ。草木やその枝葉が生いかさなる。盛んに生い立つ。しげくなる。濃い。

・忽：たちまち。あっという間に。突然。

・無知：分からない。気が付かない。

・宴游：酒盛りをして遊び楽しむ。

・対飲：向かい合って飲む。

・榴花酒：石榴の花をひたした酒。

・草屋：草ぶきの家。

・帷：とばり。カーテン。

（平仄）

七言絶句。仄起式。○は平韻の文字。●は仄韻の文字。◎は押韻。韻脚は「滋知帷」。

●●○○●○●◎（韻）

●●○○●○●◎（韻）

●○○●○○●◎（韻）